

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)

【公開番号】特開 2000-298783 (P2000-298783A)
 【公開日】平成 12 年 10 月 24 日 (2000.10.24)
 【出願番号】特願 平 11-107144
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 8 B 25/00

G 0 8 B 15/00

H 0 4 N 7/18

【F I】

G 0 8 B 25/00 5 1 0 E

G 0 8 B 15/00

H 0 4 N 7/18 D

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 10 月 14 日 (2004.10.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

図 3 は、本発明の監視システムにおける警備装置で用いることのできる警備端末装置 1 のブロック図である。

警備端末装置 1 は、中央警備装置 6 に対して一般公衆回線等の通信回線 5 を介して通報を行う通報部 17 と、カードリーダー 8 及びデータ変換器 7 を介して指紋照合装置 2 との通信を行うローカル通信 I / F 12 と、警備モード移行のための操作を行うモード移行操作部 13 と、侵入センサ 4 からの検知信号を受けるセンサ I / F 14 と、現在の警備モード情報や異常の有無等を表示する表示部 15 と、警備システムの動作プログラム、警備モード情報、及び警備モード移行操作者を識別するための認証コード（例えば、ID コード）等を記憶する ROM / RAM からなる記憶部 16 と、これらを制御する CPU 等からなる制御部 11 から構成することができる。前記モード移行操作部は、例えば、キースイッチ等であることができ、前記表示部は、例えば、LED や LCD であることができる。

この警備端末装置 1 は、警備セットモード中にセンサ 4 からセンサ I / F 14 を介して検知信号を受けると、通報部 17 から異常信号を通信回線 5 を介して警備センターの中央警備装置 6 に通報する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

一方、警備セットモードから警備解除モードへの移行操作は、前記警備解除モードから警備セットモードへの移行操作と同様に、モード移行操作部 13 でのモード移行操作（例えば、警備セット操作キーの押下）と認証コードの入力との組合せによって実施可能とすることもできるが、センサ 4 の検知状態の確認工程が不要なので、モード移行操作部 13 でのモード移行操作を行うことなく、単に、警備モード移行操作許可者が自己の認証コードを入力する操作のみによって可能にするのが好ましい。認証コードの入力は、前記と同

様に、例えば、カードリーダー 8 に ID カードを操作することにより、ID カードのカードデータを入力することによって行うことができる。警備端末装置 1 では、ローカル通信 I / F 1 2 を介して、認証コード（例えば、ID カードのカードデータ）を受信すると、記憶部 1 6 に記憶している前記移行操作許可者登録表を参照し、認証コードの照合を行う。認証コードが移行操作許可者登録表にて移行操作許可者として登録されている場合は、警備装置 1 0 を警備解除モードに移行すると共に、ローカル通信 I / F 1 2 から指紋照合装置 2 へ警備解除モード信号を送出する。この際に同時に、電気錠 3 へ解錠信号を送出するように制御部 1 1 を設定することもできる。

なお、本発明の監視システムにおいては、出入管理装置から入力された認証コードに基づいて、警備装置における警備モードを警備セットモードから警備解除モードへ移行することもでき、この点についても後述する。